

医療・介護での 生成AIの活用

- ・ 2026年 7月 14日（火）
- ・ 第24回 地域連携情報交換会
- ・ 医療法人さくら 法人本部 本部長 清水 義文
- ・ ピアザ☆ふじみ 多目的ホール

生成AIとは？

ChatGPTに聞いてみましょう。

生成AI（Generative AI）とは、文章・画像・音楽・動画・プログラムなどの新しいコンテンツを自動で作り出す人工知能（AI）**のことです。例えば、生成AIには次のようなことができます。**

-  **文章を作る**：「メールを書いて」「レポートを要約して」
-  **画像を作る**：「桜の下を歩く猫のイラストを描いて」
-  **プログラムを書く**：「Pythonで計算プログラムを作って」
-  **音楽を作る**：メロディや伴奏を生成する
-  **動画を作る**：文章から動画を生成する

身近な例では、私（ChatGPT）も生成AIの一種です。質問に答えたり、文章を作成したり、アイデアを提案したりできます。

従来のAIとの違い

従来のAIは「**判断するAI**」が中心でした。

例えば、

- 写真が犬か猫かを判定する
- 不正なクレジットカード利用を検出する

生成AIは「**新しいものを作るAI**」です。

例えば、

- 物語を書く
- イラストを描く
- 会話をする

生成AIを使うときの注意点

生成AIは便利ですが、次の点に注意が必要です。

間違った情報をもっともらしく答えることがある→ **※ 人の命を預かる医療現場では使用に注意→専用の生成AIを使用！**

個人情報や機密情報は入力しない→ **※ 電子カルテとの連動も個人情報を扱うので注意！**

作成した内容は人が確認することが大切

現在では、仕事や学校、趣味などさまざまな場面で活用が進んでおり、文書作成、翻訳、アイデア出し、プログラミング支援などに広く利用されています。

ご希望でしたら、「小学生向け」「初心者向け」「仕事での活用例」など、目的に合わせてさらにわかりやすく説明することもできます。

どの生成AIが優れているか、
チャッピーに聞いてみた。

結論から言うと、2026年現在、「1つだけが圧倒的に最優秀」という生成AIはありません。用途によって最適なAIが異なります。
最新の比較やベンチマークでも、その傾向が続いています。
代表的な生成AIを比較すると、次のようになります。
それぞれの特徴は次のとおりです。

•ChatGPT

- 最もバランスが良く、初心者から上級者まで使いやすい
- 会話品質、データ分析、画像生成、音声対話など幅広く対応
- 「1つだけ選ぶならChatGPT」という評価が多いです。

•Claude

- 長文の読解・要約・報告書作成が非常に得意
- 指示への忠実さや自然な文章表現で高い評価
- ビジネス文書や論文作成に向いています。

•Gemini

- Gmail、Google Drive、Google Docsとの連携が非常に強力
- 大量の文書や画像・動画を扱う作業に優れています。

もし私が用途別におすすめするなら、

•仕事全般・日常利用 → ChatGPT

•ゴルフスイング分析やデータ整理、文章作成 → ChatGPT

•Google Workspaceを毎日使う → Gemini

•長い報告書や契約書のチェック → Claude

となります。

用途	おすすめ
総合力・バランス	ChatGPT（OpenAI）
長文作成・文章品質	Claude（Anthropic）
Googleサービスとの連携	Gemini（Google）
プログラミング	Claude または ChatGPT
画像・音声・動画を含むマルチモーダル	Gemini または ChatGPT

ゴルフスウィングの分析は
ChatGPTが得意というので、やってみた。

「次の分解写真をゴルフスウィングを
Pシステム理論で分析して」



P1



P4



P5



P6



P7



P8



P9



P1



P4



P5



P6



P7



P8



P9

添付いただいた連続写真（後方・正面）から、一般的なPシステム（P1～P10）に沿って分析します。

総評

全体としては

バックスイングの形は良好、フェース管理も比較的安定、下半身リードもできている。

インパクトでのハンドファーストも確保されています。

一方で、「ダウンスイングで骨盤の回転がやや止まり、腕が前に出るタイプ」に見えます。

その結果、軽いプッシュ、引っかけ、ダフリ気味、アイアンの飛距離ロスにつながる可能性があります。

P1（アドレス）

良い点

前傾角度が適正。背中が丸くなりすぎていない。腕が自然に垂れている。

気になる点

正面から見るとややつま先寄に見えます。理想は土踏まず中央付近。

P4（トップ）

非常に良い点

左腕がしっかり伸びている。肩の回転量が十分。オーバースイングではない。

正面からも、頭の位置が安定。右膝が流れていないので、トップはかなり優秀です。

気になる点

トップで左手首がややカップ気味に見えます。そのためフェースが少し開きやすい傾向があります。

P5（左腕水平）

ここが一番特徴的です。

良い点

下半身先行ができている。クラブが立ちすぎていない。

改善点

後方画像ではクラブヘッドがやや手元より後ろ。つまりシャフトが寝る（ややアンダープレーン）傾向があります。

この形からフェースが遅れる、手で合わせる動きが出やすくなります。

生成AIから見える将来像

ここまでで分かったこと。

※質問や実行をお願いした内容は全て覚えている。

→使用者の癖や性格まで覚えて分析してくる。

使用者の気分を害さないように注意している。
(何回も使ってもらいたいから?)

情報収集をしていて、データ化している。(マーケティングのデータベース)

※回答もAIの性格を出してきている。

→優しい言い方、誤解されないような言い回し、
厳しい言い方にすることも可能と考えられる。(性格や癖を作り出せる)

近い将来RPA (Robotic Process Automation) も組み込まれる。

体を着けてやれば、言葉で語りかければ全てやってくれる→ヒューマノイド?
(老人に優しい。。。)

となると、介護職は不要？

ヒューマノイドが居れば

食事介助やトイレ介助、着替えや、話し相手にもなってくれる。

→介護系施設も要らなくなり、全て自宅で過ごすことができる。

（当然、掃除、洗濯、食事作り、買い物（ネットで買うのも可）
車も自動運転でどこへでも連れて行ってくれる。

※ 一家に一匹、ドラえもんが居るようなものか？

近い将来の医療業界は

AI診断で処方箋まで出せる。→現時点でAI診断ソフトは多数あり。

電子カルテとの連携で各サマリの自動化。

→医師・看護師の負担軽減（現時点で実行されています）

紹介状なども自動化→医師事務作業補助者は最終的に不要？

レセプトも生成AIで（既に順天堂で実施）→医事課は課長一人でOK？
（症状詳記も医師に書いてくれと催促して来るはず）

薬剤科、放射線科、検査科、リハビリ科なども生成AIが入り込み人員削減？
手術はどんどんロボット化。

近い将来の医療業界は

更に、ヒューマノイドが居れば、
看護補助は不要。

リハビリもヒューマノイドが行う。

看護師、看護補助者、医事課、薬剤科などの区別は無くなり、
全てヒューマノイドが行う。

数名の医師が残るか？

そして、最後は患者以外の人間は病院には居なくなる？
(経営者はどこにいてもOK)

人間の対応する病院は、超高級病院となる？

厚生労働省は2024年、「AIの医療応用に関するガイドライン（医療分野におけるAIの適正な利活用のための指針）」を公表

政府の考え方

観点	汎用AI	医療向け生成AI
医療特有の専門知識・文献対応	一般的な言語データを学習しており、医学用語やガイドラインの理解が不十分な場合がある	診療ガイドライン・学術論文・電子カルテ構造化データなど医療特化データを学習し、現場表現や文脈を正確に理解
誤情報（ハルシネーション）リスク	「それらしい回答」を生成する傾向があり、誤情報を含む可能性がある	情報ソースの参照・生成内容の検証・根拠文献の添付により誤情報を抑制
個人情報・セキュリティ対応	入力内容が外部サーバーに保存されるケースもあり、情報漏えいリスクに注意が必要	匿名化・院内完結サーバー・通信暗号化など、医療情報ガイドラインに準拠した設計
業務フローへの最適化	回答生成が主目的で、医療業務への統合は想定されていない	カルテ記載・退院サマリー・問診・報酬算定など具体的な業務フローに組み込み、医療職のUIに最適化

更に

令和8年6月26日

財務省の「春の建議」で

「医学部・歯学部・薬学部の定員数の削減」が提言

現時点では、医療向け生成AIサービスは、効率化したい業務によって大きく3つのタイプに分けられます。

導入目的	適したタイプ	主なツール
医師・看護師の業務効率化	文書作成・記録支援型	ユビー生成AI、ヘルステックONE、CocktailAI、OPTiM AIホスピタル、medimo
患者対応・受付自動化	対話型・チャットボット型	GaiXer、cotomi
臨床・研究支援	情報探索・分析型	HOKUTO、Hippocratic、Bedrock

後は、ユビーさんよりレクチャーお願い致します。